

# いもう 葦毛通信



センニンソウ

2026年9月14日  
豊橋市文化財センター  
豊橋市松葉町三丁目1  
TEL: 0532-56-6060

No. 189

## 1、第10回葦毛湿原再生フォーラム

### 「葦毛湿原の再生」

とき：10月17日(土)開会13時55分～16時30分(開場13時30分)

ところ：豊橋市民センター カリオンビル6階多目的ホール(松葉町2丁目63)

講師：吉田 豊(葦毛湿原調査員)・贅 元洋(豊橋市文化財センター)

演題：吉田 豊「葦毛湿原の再生」・贅 元洋「葦毛湿原の大規模植生回復作業」

定員：99名 当日先着順 参加料：500円

問合せ：豊橋市文化財センター(☎0532・56・6060)

内容：国指定天然記念物「葦毛湿原」は、東海地方でも最大級の面積を誇る湧水湿地ですが、1960年代からの里山の荒廃とともに遷移が進み森林化し湿地や草地が激減して湿地としては消滅の危機にありました。そこで2013年1月から大規模植生回復作業を開始し、徐々に湧水湿地としての環境を取り戻しています。

今回の葦毛湿原再生フォーラムでは、かつての良好だった葦毛湿原とその遷移に伴う変化を説明し、大規模植生回復作業によって、どのように再生してきたのかを解説します。

#### 1) かつての葦毛湿原

葦毛湿原及び周辺の山は江戸時代以前から、山は薪を採る薪炭林、山裾は牛馬の餌の草を刈る草刈り場(秣場)として500年以上に亘って利用されてきました。つまり、葦毛湿原は広大な秣場にあった湿地です。

下の写真は1967年に葦毛湿原から周辺の山を撮影したものです。左は葦毛湿原の西側から東の静岡県方面を見たもの、右は北から南側の山を見たものです。山には木がほとんどなくハゲ山状態です。これらは山火事後の写真ですが、江戸時代の古文書には葦毛湿原周辺の山は小さなマツがまばらにある疎林であると書かれています。

一見すると森林が破壊された環境のように見えますが、山はマツを中心とした疎林、山裾は広大な草地と湿地がある多様な環境であったことが分かります。



葦毛湿原(1967年5月4日、写真：星野清治) 左：西から東を見る、右：北から南を見る

下写真は 1975 年に葦毛湿原西側の木道から静岡県側を見たところです。向かって右側はハゲ山になっていますが、左側は植林地になっています。右側が火事の範囲と思われます。



**生物多様性が豊かだった頃の葦毛湿原（1975 年 9 月 20 日）写真：星野清治**

## **2) 遷移が進んだ葦毛湿原**

葦毛湿原は 1960 年代にガスが普及することにより薪を採らなくなり、耕作に使う牛馬が



**最も遷移が進み森林化した葦毛湿原（2011 年 9 月 22 日）**

耕運機になり、葦毛湿原は里山として利用されず放置されました。その結果、環境の多様性が無くなり、生物多様性が無くなりました。これは里山の荒廃と呼ばれ、全国的に起きたことです。前頁下の写真は遷移が進み、葦毛湿原が最も森林化した状態の写真です。

### 3) 大規模植生回復作業

2013年1月から開始した大規模植生回復作業は、保全生態学と考古学の発掘調査の技術を融合させた新たな取り組みで、重機を使って大規模に作業を行っています。バックホーを使ってネザサの根を剥ぎ取り、木の伐根を行っています。



バックホーによる作業（左：ネザサの根の剥ぎ取り、右：伐根）

### 4) 現在の葦毛湿原

大規模植生回復作業により、広い湿地と草地が再生されました。埋土種子から絶滅した植物が復活し、多様な環境が再生されています。



多様な環境が再生されて行く葦毛湿原（2021年10月2日）

## 5) 復活した植物

葦毛湿原では 21 種類の植物が地上から姿を消しました。これを地上絶滅と称していますが、これらのうち、15 種類が埋土種子から復活しました。しかし、復活して順調に個体数が増えた植物がありますが、1 年でまた見られなくなってしまう植物もあり、徐々に衰退して個体数を減らし絶滅寸前になっている植物もあります。埋土種子から復活したからと言って安心できる状況ではなく、植物ごとに状況が異なるので復活状況を見極めながら個別に絶滅しないような対策をとる必要があるようです。

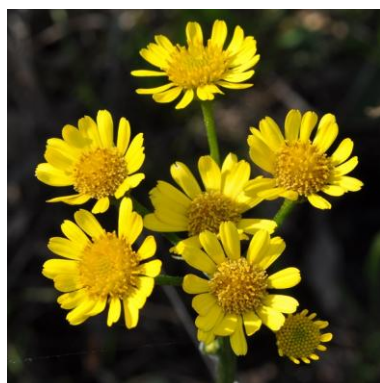
**ヒメミミカキグサ**（愛知県絶滅危惧ⅠB類）は 2012 年に開花数がゼロになり地上絶滅状態でしたが、大規模植生回復作業により 2013 年には復活し、これ以後順調に個体数が増え、2025 年は開花数が 500 輪を超える状態です。絶滅の状態を脱し見事に復活しましたが、葦毛湿原では 1 か所にしか自生地点が無く、まだ危険な状態です。**サワラン**（愛知県絶滅危惧ⅠA類）は 2002 年に絶滅し、2016 年に復活し開花しましたが、1 年で消えてしまいました。**ヤマトキソウ**（愛知県絶滅危惧Ⅱ類）も 1988 年に絶滅し、2025 年に復活しましたが、今年 2026 年には開花せず、一年で消えてしまいました。**サワオグルマ**は 1985 年ごろに絶滅し、2015 年に復活し開花しましたが、5 年ほどで消えてしまいました。**コオニユリ**は 1990 年代に絶滅し、2017 年に復活しました。その後、人工授粉をすることにより徐々に個体数が増えています。**カガシラ**（愛知県絶滅危惧ⅠA類）は 2012 年に絶滅し、2014 年に復活しました。その後、地表面を裸地化したところから発芽するようになりましたが、すぐに他の植物に負けて消えてしまいます。しかし、新たな裸地から、また復活してきます。



ヒメミミカキグサ

サワラン

ヤマトキソウ



サワオグルマ



コオニユリ



カガシラ